

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和元年度相模原市子ども・子育て会議 第2回子ども・子育て支援事業計画策定部会		
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8316(直通)		
開催日時		令和元年6月17日(月) 午後6時から8時		
開催場所		けやき会館 職員研修所大研修室		
出席者	委員	11人(別紙のとおり)		
	事務局	11人(こども・若者政策課長ほか10名)		
公開の可否		可	不可	一部不可
公開不可・一部不可の場合は、その理由		傍聴者数		
会議次第		1人		
会議次第		1 開 会 2 議 題 (1) 第2次相模原市子ども・子育て支援事業計画の策定について (2) その他 3 閉 会		

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

2 議 題

(1) 第 2 次相模原市子ども・子育て支援事業計画の策定について

基本目標 1 は「子どもの権利を大切にす取組の推進」となっており、自分のことが好きと言える子どもの割合を成果指標としているが、子どもの権利を大切にすると自己肯定感が高くなり自分のことが好きになるのか。そもそも日本人は謙虚を美德とするところがあるので、この成果指標だと目標を達成しにくいと思われる。聞き方としては「周りの人の大切にされていると思うか」などの方が、施策の方向とは整合性があると思う。

基本目標 1 では児童虐待やいじめに関する項目があり、虐待やいじめを受けると自己肯定感が低くなりやすいというのは推察できるが、逆に防止できれば自己肯定感が上がるというものではないと思われる。経年変化を見る観点から、自己肯定感を成果指標とすることについては差し支えないが、自分のことが好きと言えるかどうかで計るものではないと思う。自己肯定感の評価尺度はまだ研究段階にあるが、そういった研究なども踏まえて検討されたい。

子ども自身が、まず自分の褒めるところを探すことから始めると、自分の良いところに気づき、自己肯定感が高くなると思うので、質問の工夫次第で結果が異なってくると思われる。

過去との連続性の観点から、基本的には指標を変更しない方向で検討しているが、より良い指標があればもちろん改善していきたいと考えているので、良案があれば頂きたい。また、アンケート調査の質問を変更するなどの対応が必要な場合には、事務的な調整が必要になるので、そういった部分も含めて検討していきたい。

現行計画において目標を達成する見込みがない成果指標も、ほぼ達成している成果指標も、同様に次期計画において変更しない方向だが、例えば達成する見込みがない成果指標については、それを達成させるための施策が新たに盛り込まれる予定なのか。

目標の達成状況は様々だが、成果指標における目標は、何かの施策を充実させれば達成できるというものではないと考えており、あくまでも現在の取組の成果を計る目安であると捉えている。

基本目標 8 の成果指標は子育てサポーターの活動者数となっているが、地域では子育てサポーター以外にも様々な子育て支援者がいるので、もっと広く捉えることが出来ればよいと思う。

これからは包括的な切れ目のない支援を充実させていくという表現がされており、その部分はとても良いと感じている。

また、全体を通しての数点意見させていただく。

まず、細かい部分ではあるが、「家族」と「家庭」は意味合いが異なるので、整理して適切に表現すべきである。

次に、障害児施策について、障害のある人もない人も認め合い支え合う共生社会を目指すために、インクルーシブ教育の推進について掲載してはどうか。また、障害については早期の発見・支援が重要なので、関係機関との連携強化についても掲載されたい。

次に、幼保小の連携については、幼保側だけでなく、小学校側でも連携の強化を図る必要があるため、学校教育に関する項目においても掲載した方が良いと思う。

次に、子育てと仕事の両立支援については、企業も含めた社会全体で環境を作っていくという方向性を記載した方が良いと思う。

次に、基本目標 8 の地域社会における子育て支援に関する項目において、ボランティア活動の推進を加えることで、次代を担う子どもが地域で人と触れ合いながら共生社会を作っていくことができるので、その旨を記載した方が良いと思う。

最後に、基本目標 10 においては子育てに関する情報提供について掲載されているが、情報発信については強化していく必要があると思うので、その旨追記されたい。

先般、園児が犠牲となってしまった大津市の交通事故を受け、待機児童対策については工夫が必要であると感じている。

現在、待機児童を解消するために、保育所については園庭を必要としないなど、弾力的な認可基準となっているが、一方で、幼稚園については従来の認可基準が残っているため、必ず園庭があり管理もされている状況である。園庭の無い保育所は近隣の公園を園庭代わりに使用しているが、そこへ歩いて向かう道中は、やはり交通事故のリスクがあるので、そのリスクを回避させる必要があると思う。交通安全対策はもちろんだが、そもそも園庭があれば近隣の公園まで歩いていく必要がないので、その解決方法の 1 つとして、既に園庭のある幼稚園を活用した施設改修の必要がない 2 歳児の預かりなどが考えられる。次期計画においては、そういった視点を踏まえた表現にすべきであると思う。

また関連して、保育士不足の解消のために保育士の処遇改善については実施していくこととなっているが、幼稚園教諭についても同様に処遇改善が必要であるため、明記していただきたい。

最後に、冒険遊び場事業についての意見だが、当該施設は主に小学生を対象としており幼児にとっては難易度が高いので、幼児も遊べるような施設があるとよ

いと思う。

職場環境や処遇の改善によって保育人材を確保することが、結果として保育者の資質の向上や保育の質の向上につながると考えられるので、明記すべきであると思う。

幼稚園で2歳児を預かることについて意見があったが、2歳児の保育は非常に難しい保育の1つであると認識している。昨年度には幼児教育・保育ガイドラインが策定されたところであるが、2歳児の預かりを実施する場合には、保育者はそれらの内容をしっかり認識して、保育する必要があると思う。

情報発信の強化について意見があったが、教育・保育や子育て支援に関わる人については情報を得る機会があり、それ以外の人は機会があまりないと思われる。今後は様々な主体が子育てに関わっていく必要があるため、やはり情報発信についてはさらなる強化が必要であり、次期計画で充実すべきだと思う。

「計画の推進」については、計画の末尾に第3章として掲載されているが、計画の推進に当たってはPDCAサイクルの中で、社会情勢の変化に対応しながら実施されていくものだと思うので、第1章の「子ども・子育てを取り巻く状況」の前後に掲載した方が分かりやすいと思う。

成果指標についての意見だが、民間企業等においては、成果指標は重点的な事業の成果を計るものとし、当然のことながらそこに予算を費やしていくことになるが、本計画においてはそういった重点施策のようなものがないので分かりにくい。

本計画における成果指標については、ご意見のとおり、重点施策の目標値を設定するものではないので、その施策に予算を費やしていくということではなく、あくまでも基本目標単位で進捗を計る目安として捉えている。

成果指標については因果関係が明確である方が施策に反映させやすいが、明確過ぎるとその分野だけを充実させることになってしまう。そういったことも踏まえつつ、ある程度広い範囲を計れる分かりやすい成果指標を検討したい。

成果指標は、現行計画のものを基本としているが、新たな取組や施策もあるので、そのあたりを踏まえて次回以降の部会において各委員からは意見を頂き、事務局においては検討を進めていただきたい。

3 閉 会

相模原市子ども・子育て会議

子ども・子育て支援事業計画策定部会委員名簿

(五十音順)

	氏名	所属等	出欠
1	片山知子	元和泉短期大学児童福祉学科教授	出席
2	川上孝生	相模原市小中学校長会	出席
3	笹野和子	公募市民	出席
4	中島清美	公募市民	出席
5	中台厚	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出席
6	永保貴章	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども協会	出席
7	西谷八千代	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出席
8	藤井春美	相模原市学童保育連絡協議会	出席
9	松原充子	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出席
10	村瀬麻衣子	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出席
11	山崎和正	相模原商工会議所	出席

部会長